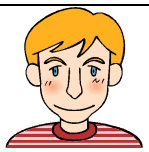

世界が伝えた 3.11「日本の品格」

外国人記者が2011.3.11の日本の様子を当時新聞等で次のように伝えました。

「大地震後の物が散乱しているコンビニ。人々は落ちている食料品を拾い黙ってレジにならんでお金を払う。店側も発電機で店内を照らし、レジを動かして黙々と対応している。・・・やがて、発電機の燃料がなくなり、店内が暗くなると、人々は持っている品物を棚に戻し、静かに店から出て行った。」

「何十kmの気の遠くなるほどの交通渋滞、永遠に続くかと思われた時間の中で、しかし、私は目的地に着くまでただの一度もクラクションを聞かなかったことに・・・、今驚いている。」

「災害につきものの略奪やうばい合いが見られない、怒鳴り声の代わりに口から出てくるのは『ありがとうございます』『すみません』の言葉。」

「山のように買い占める者も便乗値上げする者もいない、むしろ値を下げている店があるほど。」

「配給の列に割り込む者はいない、そして配給後の広場にはごみ１つ落ちていない・・・、これが日本人の姿。」

外国の記者は、その姿を目にして涙が出たと言います。

記者は「大震災で日本は全てを失った。しかし、何にも勝るものが日本には残っている。それは日本人そのもの」と伝えています。

最後の最後に残るのは「人間性」、その人の本性。

困っている人がいたら手をさしのべる、思いやりの心をもって誠実に人に接する、人のいやがること・迷惑になることはしない、自分が為すべきことは最後までしっかり行う・・・当たり前のことを当たり前に行うこと。そのことこそ、日本が世界に誇れる「日本の品格」。

日本の、そして世界の未来を担うみなさんに、今しっかりと伝えたいことです。これから先の日本の、福島の、そして自分自身の希望と誇りと品格のために。

桶売小学校　本名　武